

2022.2.15

中期経営計画2025

2022年12月期～2025年12月期

地域に根差し、地域を超えて
マルチ・ステークホルダーとの強い絆を築く

2022年2月

株式会社 **福田組**

証券コード番号
1899

目 次

I.	中期経営計画2025策定にあたって		P2
II.	当社が目指すべきもの		P3
III.	前中期経営計画2021の振り返り		P4
IV.	外部環境認識		P7
V.	中期経営計画2025：現長期ビジョン2025の集大成 と次期ビジョンへの起点		P8
VI.	中期経営計画2025策定の考え方		P9
VII.	中期経営計画2025		P10
	・ 基本方針		
	・ 業績・経営数値目標		
	・ 投資計画		
	・ スローガン		

I. 中期経営計画2025策定にあたって

(株)福田組は、1902年に創業以来、**120年**という長い歴史において、建設業に求められるものは刻一刻と変化する中、時代の流れや変化を見つめ、常に社会に求められるものを形にして参りました。

当社は、新潟県の建設業におけるリーディングカンパニーとして、地元新潟から大都市圏へと事業規模を拡大しながら、技術力を磨き、FUKUDAスピリットである「誠実」の精神のもと、様々な困難にも真摯に向き合い、我が国の発展に尽力して参りました。

これまで培ってきた、120年の歴史から、更なる持続的な成長を遂げていくために、次期中期経営計画2025を

次のステップに向けた『**変革期間**』と位置付け、柔軟に思考を変化させ、安定した経営基盤をより強固にします。

地域に根差したサステナブルな成長を実現し、『**100年先も誠実**』であり続けるために、お客様の満足の実現と更なる企業価値の向上に取り組んで参ります。



おかげさまで120周年



Ⅱ. 当社が目指すべきもの

長期ビジョン2025 (2016～2025)

2016年2月公表

10年後のあるべき姿として、継続的かつ安定的な成長のために
主に「強い連結経営で地方ゼネコンの枠を超えた全国展開」を目指します

中期経営計画

- Phase3 2022～2025
- Phase2 2019～2021
(2019年2月公表)
- Phase1 2016～2018
(2016年2月公表)

10年後のあるべき姿の実現に向け、
3カ年毎の中期経営計画を策定し実行、
今回の中計は最終ステージで長期ビジョンの仕上げへ

グループスピリット

100年先も誠実

- ・フクダグループの誠実とは、かげがえのない人を愛するように、誠心誠意尽くすことである
- ・誠実を貫き、大切な人たちとのとの強いきずなをつくりあげ、そのいのちと暮らしを守る
- ・我々はグループの総力を結集し、この使命を果たし、100年先もつなげていく

Ⅲ. 前中期経営計画2021の振り返り (1/3)

成 果

- コロナ禍や競争環境が激化する逆風下においても、営業利益は目標達成
- 関東、西日本、九州地区での大型建設案件の受注増
- グループ子会社の安定した業績の推移
- 自己資本力の向上と安定的な株主還元の維持
- 働き方改革による、休暇取得と時間外労働の削減に向けた施策の始動

課 題

- 建設投資の減少や競争激化の中でも、安定した受注量の確保
- 労働安全や施工品質の向上
- 建設離れによる採用減と人材育成の遅れ
- 更なるグループシナジーの発揮
- 付加価値向上のための協力会社との強固な関係の構築

Ⅲ. 前中期経営計画2021の振り返り (2/3)

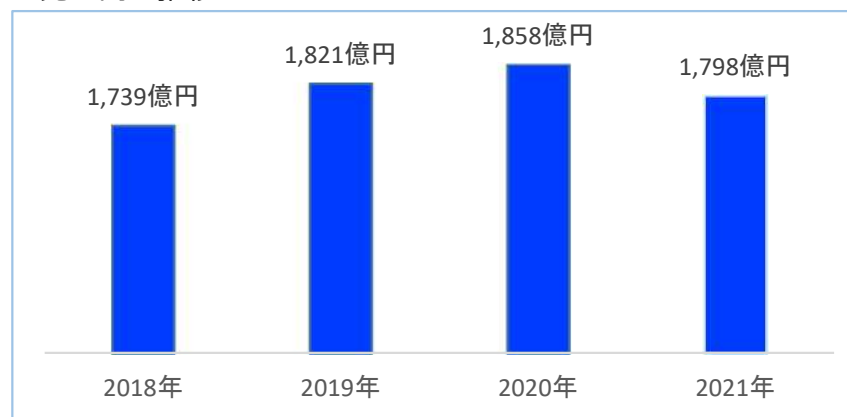
● 業績目標と達成状況

- コロナ禍・競争環境激化で、売上高未達だが、コスト低減により営業利益は達成（目標79億円→実績88億円）

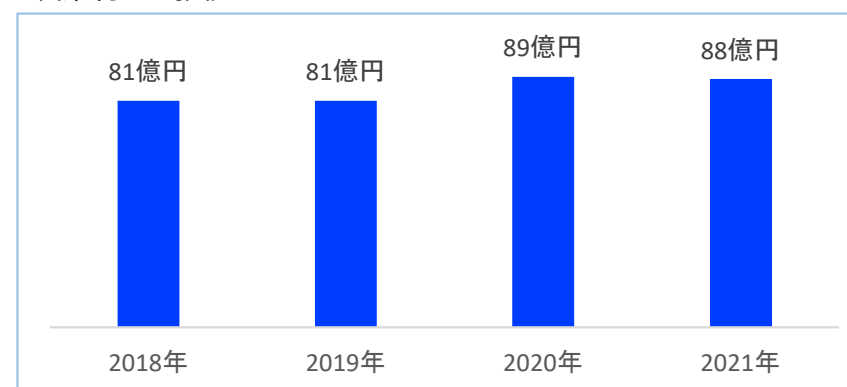
- ▶ 売上高：採算性と事業規模拡大を狙い大型工事の受注獲得も、コロナ禍やオリンピック後の競争激化で未達
- ▶ 営業利益：採算性を重視した受注と原価管理によるコスト低減に努め、目標は達成

項 目	2021年12月期 中期経営計画	2021年12月期 実 績	達成状況
売上高	1,890億円	1,798億円	▲92億円
福田組単体	1,235億円	1,131億円	▲104億円
(建築・土木)	(1,200億円)	(1,104億円)	(▲96億円)
(開発事業)	(35億円)	(26億円)	(▲8億円)
グループ会社	655億円	667億円	+12億円
営業利益	79億円	88億円	+9億円
福田組単体	58億円	58億円	±0億円
(建築・土木)	(95億円)	(92億円)	(▲3億円)
(開発事業)	(8億円)	(6億円)	(▲2億円)
(販管費)	(▲45億円)	(▲40億円)	(▲5億円)
グループ会社	21億円	30億円	+9億円

● 売上高の推移



● 営業利益の推移



Ⅲ. 前中期経営計画2021の振り返り (3/3)

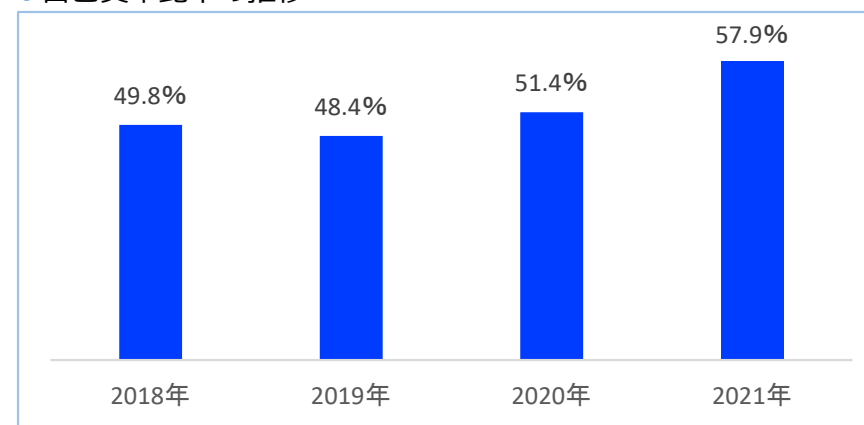
● 経営数値目標と達成状況

● コロナ禍で、バランスシート・マネジメントに注力し、有利子負債は抑制

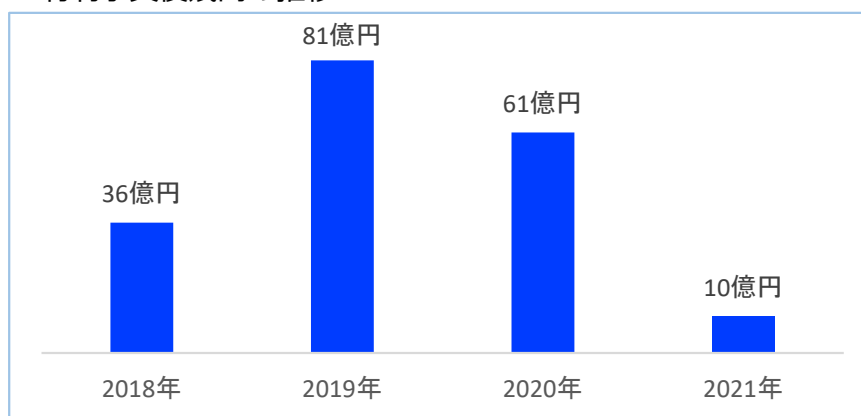
- ▶ コロナ禍で収益性強化に努めた結果、安定した利益計上を背景に、自己資本比率50%以上に
- ▶ 今後は、健全な財務体質を維持しつつ、持続的な成長のための投資と適正水準での分配が検討課題

項目	2021年12月期 中期経営計画	2021年12月期 実 績	達成状況
自己資本比率	50%以上	57.9%	+7.9%
有利子負債残高	20億円程度	10億円	▲10億円
純資産配当率	1.6%程度	1.5%	▲0.1%
配当性向	20.0%	18.9%	▲1.1%

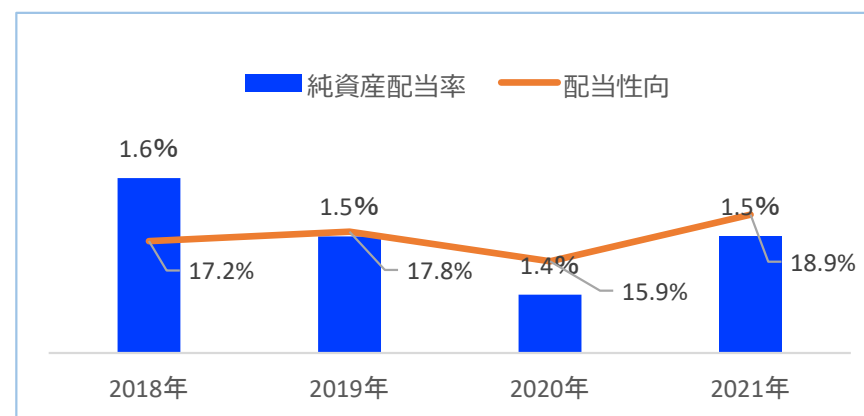
● 自己資本比率の推移



● 有利子負債残高の推移



● 純資産配当率・配当性向の推移



IV. 外部環境認識

- 短期的には厳しいが、中長期的にはビジネスチャンスがある

建設業界の変化と当社に求められる力

- ▶ 公共投資：国土強靱化やグリーン社会の加速化により投資堅調も、発注形態や応札条件は年々変化
民間投資：循環型社会やデジタル化に関連する投資はより範囲を広げ長期的に拡大
⇒新しい分野からの様々なニーズに対応するための提案力・技術力
- ▶ 建設市場：日本経済の先行きが不透明の中、受注競争は激化
⇒厳しい競争を勝ち抜くための営業力とコスト競争力
⇒新潟県内外にとらわれず既存事業エリアの深耕による安定受注
- ▶ 慢性的な人手不足対策として人的資本戦略の見直し、生産性の向上、外国人労働者確保等が加速化
⇒2024年4月：建設業に労働時間の上限規制適用、『100年先も誠実』である人財の確保と育成が急務

環境

- 地球温暖化の進行
- 自然災害の増加
- 脱炭素への移行
- 循環型社会の形成へ

社会

- 少子・高齢化による人口減少
- 建設業における担い手不足
- ダイバーシティの実現
- 加速度的にデジタル社会へ移行

新型コロナウイルス

- 世界的に変異株の感染が急速に拡大
- パンデミックによる経済活動の混乱継続
- 回復傾向であった国内の経済動向も先行きは不透明に

V. 中期経営計画2025：現長期ビジョンの集大成と次期ビジョンへの起点

● 当社の目指すべき姿

長期ビジョン2025『100年の歴史の伝承と次の100年に向けた挑戦』

(2016年2月公表)

強い連結経営で
地方ゼネコンの枠を超えた全国展開

全てのステークホルダーと
WIN・WINの関係を構築

品質と安全で
顧客満足の創造

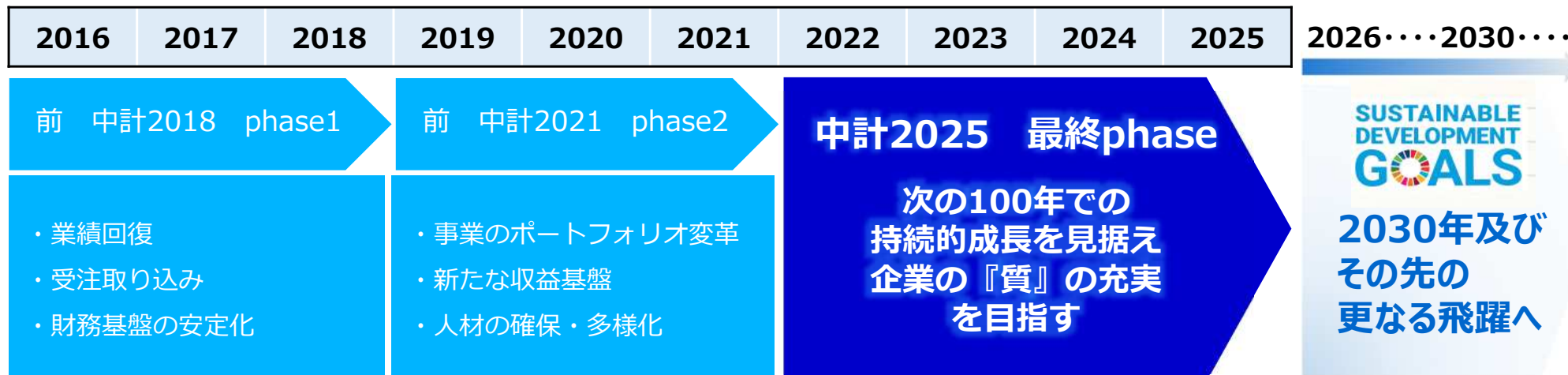
高い技術力・高い提案力
のある企業集団

優秀な人材の確保と活躍
できる環境の整備

次期長期
ビジョンへ

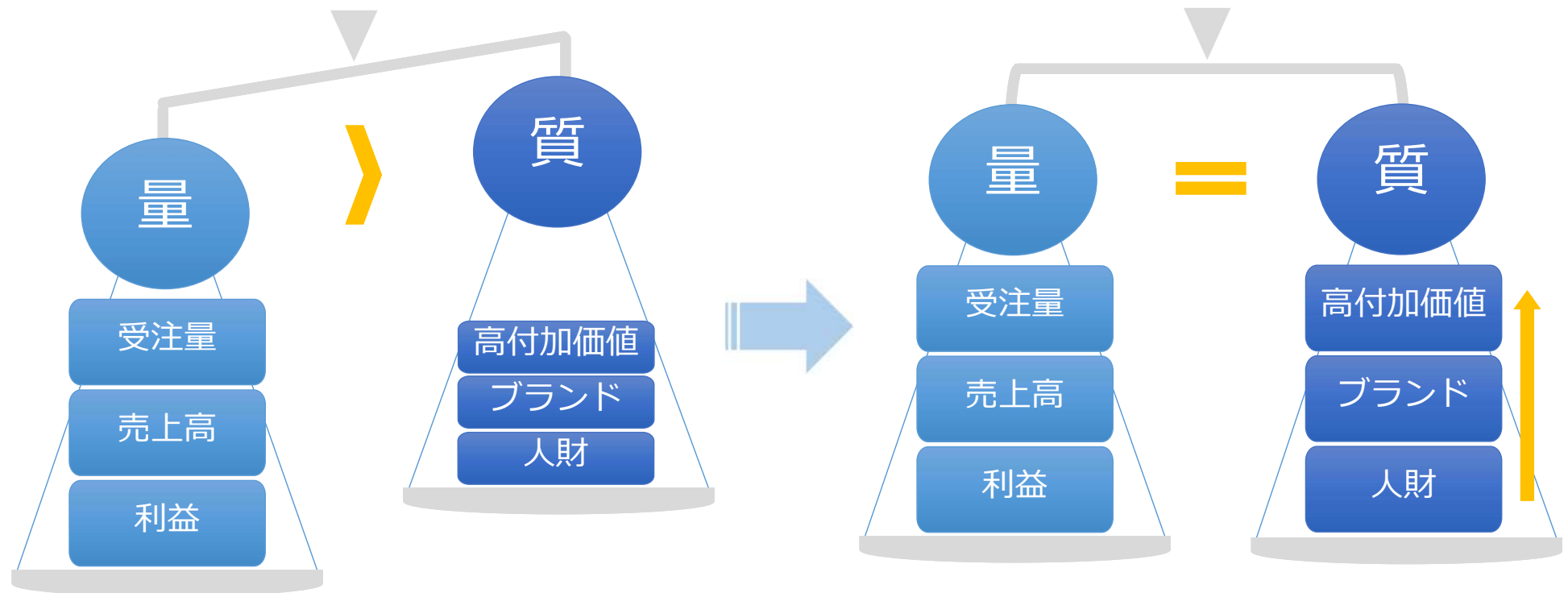
収益性指標：ROE 安定的に8%程度

株主還元：純資産配当率2.0%又は配当性向20%を目安に



VI. 中期経営計画2025策定の考え方：「量」と「質」のバランス

- 「量」と「質」のバランスをとり、企業価値を向上させる



少子高齢化・人口縮小により国内建設市場の量的縮小は不可避だが
市場規模動向に左右されないサステナブルな成長へ

「100年先も誠実」

VII-1. 中期経営計画2025 基本方針

- 前中計の継続課題と外部環境の変化を踏まえ、5つの基本方針を策定し、持続可能なFUKUDAへ

前中計の継続課題＋外部環境の変化

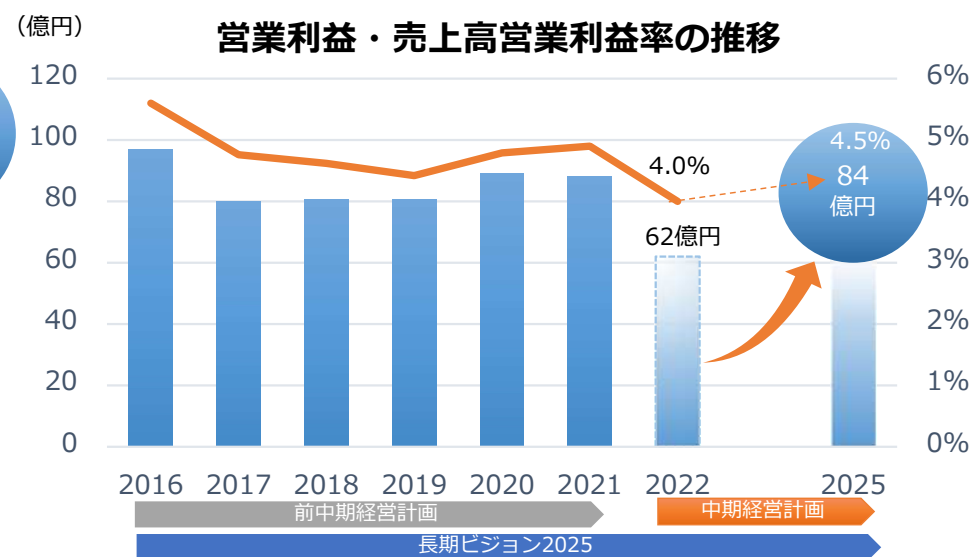
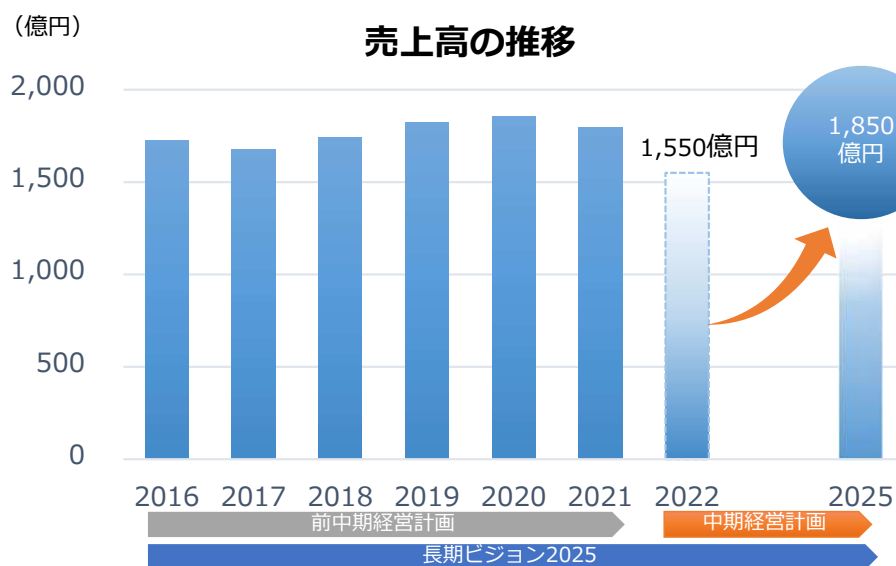
基本方針

1. 主要事業（建設・不動産）の進化と深化
～再強化と可能性の追求～
2. フクダグループによる誠実ブランドの確立
～信頼による営業力の強化～
3. 安全と品質の強化と徹底
4. 人財の充実と成長
～組織を支える多様な基盤の整備～
5. 企業価値向上のためのESG経営

VII-2. 業績目標

- 2025年12月期は、売上高1,850億円、営業利益84億円、営業利益率4.5%を必達ラインとする
 - ▶ 2021年度のコロナ禍の影響による受注量の減少を受け、2022年度は厳しい経営環境下でスタートするものの、『質』の充実に投資を行いながら、着実な成長を目指す

項目	2021年12月期 実績	2022年12月期 計画	2025年12月期 計画
売上高	1,798億円	1,550億円	1,850億円
営業利益	88億円	62億円	84億円
売上高営業利益率	4.9%	4.0%	4.5%

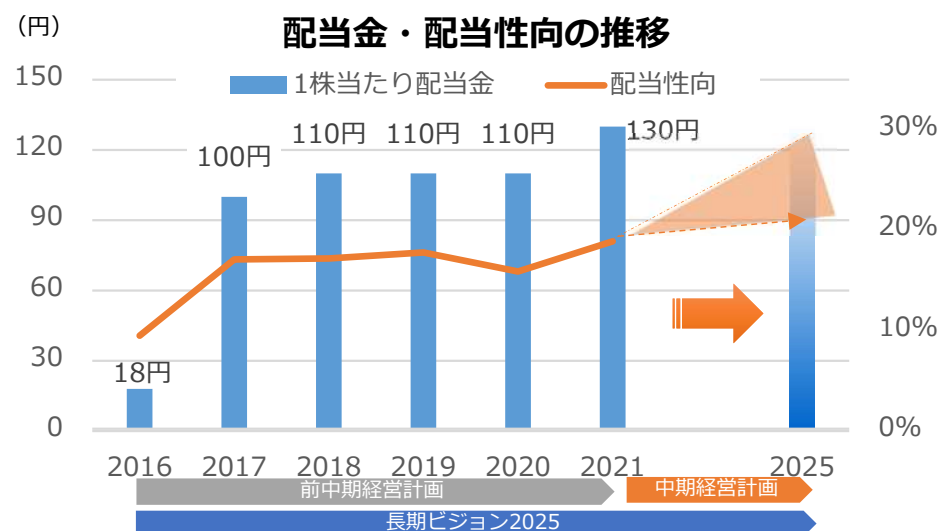
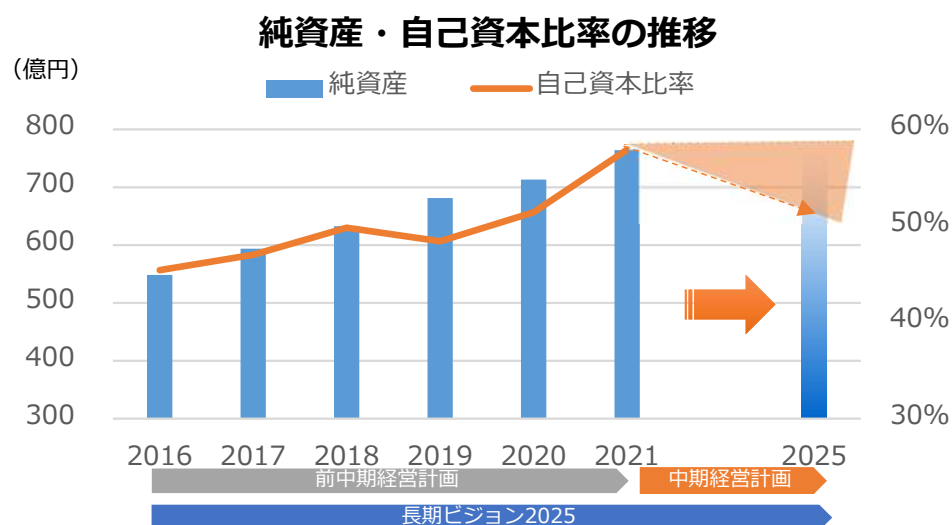


VII-3. 経営数値目標

項目	2021年12月期 実績	2025年12月期 計画
自己資本比率	57.9%	50.0%
ROE	8.0%	8.0%程度
配当性向	18.9%	20.0%以上

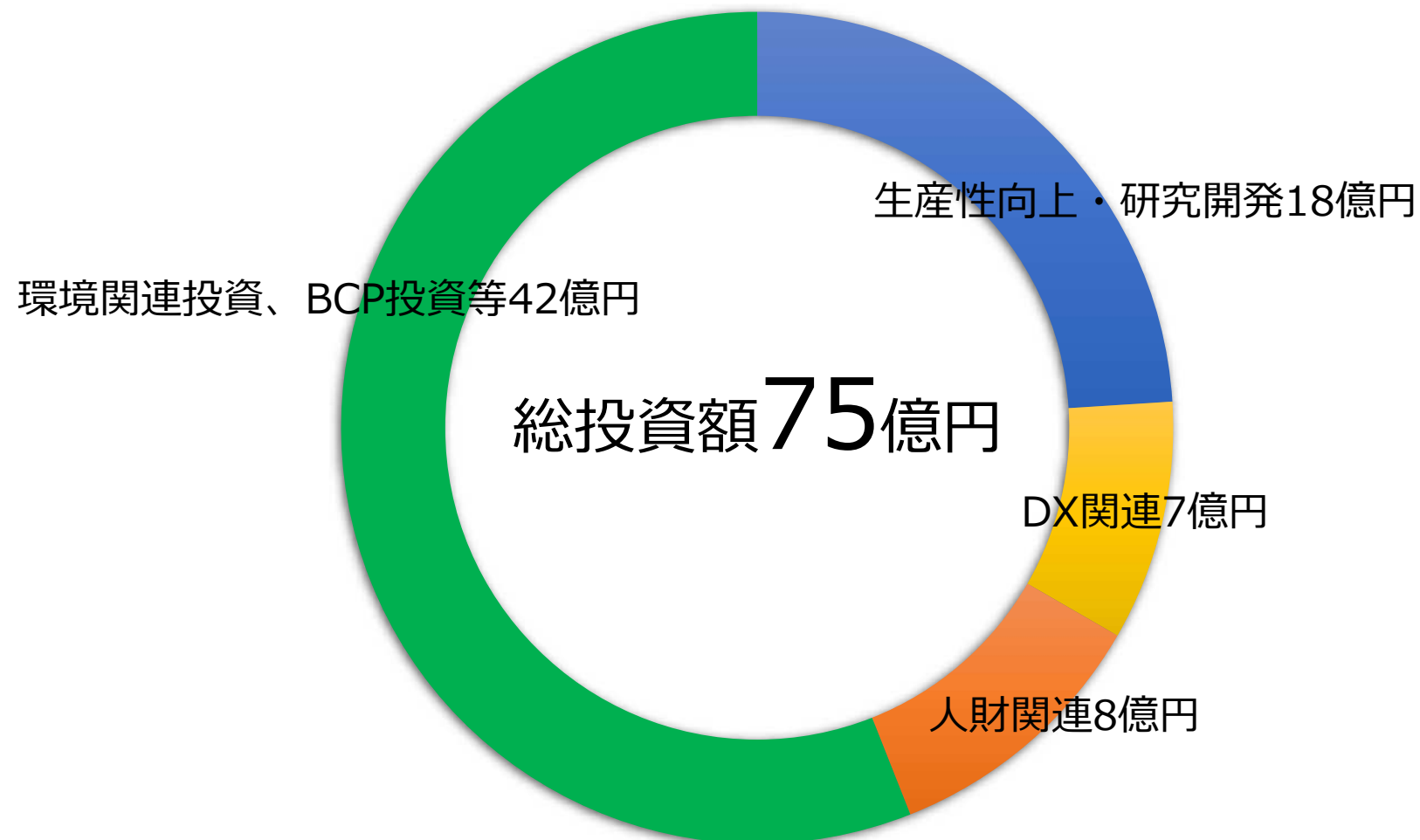
株主還元方針

- 企業価値の向上に向けて、積極的な成長投資や財務体質の強化を図るとともに、継続的、且つ、安定配当を基本方針とする
- 株主還元策の積極化を目指す



VII-4. 投資計画

- 次の100年での持続的成長を見据え、4年間で75億円規模を投資し、『質』の充実を図る
- 資本コストを意識した資金の活用を検討していく



VII-5. 基本方針1 – 主要事業（建設・不動産）の進化と深化 –

- 主要事業（建設・不動産）を根本的に見直し、『進化と深化』させることにより経営基盤の強化を行う

進化

主要事業（建設・不動産）における環境の変化に、柔軟に対応できる企業へ進化

深化

主要事業（建設・不動産）の見直しと深掘を行い、強固な事業基盤を構築

- ▶ 大型物流施設や商業施設への営業力の強化
- ▶ 民間土木の開拓と営業の強化
- ▶ 関東、西日本エリアにおける不動産開発事業の取組みの拡大と促進
- ▶ 再生可能エネルギー、リニューアブル周辺事業への取組みの強化
- ▶ コストと生産性を意識した事業プロセスの見直し
- ▶ デジタルプラットフォームの活用による主要事業（建設・不動産）の成長

VII-6. 基本方針2 –フクダグループによる誠実ブランドの確立–

- マルチ・ステークホルダーと『100年先も誠実』に向き合い、
質の高いサービスを提供し、企業価値の向上とシナジー効果による成長を促す

- ▶ サステナブル成長への課題の克服
- ▶ 不動産企画提案を通じたグループシナジーの活用
- ▶ 経営理念を体現する人財の発掘・育成
- ▶ グループ間での積極的な人財交流による組織力の強化
- ▶ 協力会社との強固なパートナーシップの構築による付加価値の向上

100年先も誠実

FUKUDA SPIRIT

フクダグループの誠実とは、
かけがえない人を愛するように。誠心誠意尽くすことである。
誠実を貫き、大切な人たちとの強いきずなをつくりあげ、
そのいのちと暮らしを守る。
我々はグループの総力を結集し、この使命を果たし続ける。
たとえ100年経っても変わらない。

VII-7. 基本方針3・4 – 安全と品質の強化と徹底、人財の充実と成長 –

安全と品質の強化と徹底

- 安全・安心最優先で「信頼されるFUKUDA」として、マルチ・ステークホルダーとの更なる信頼を築く
-
- ▶ 労働安全、施工品質向上に向けた体制の強化
 - ▶ 安全最優先の企業風土の徹底

人財の充実と成長

- 人的資本の形成と活用を目指し、多様な人財の確保と社員一人ひとりの成長を促す
-
- ▶ 担い手確保と育成のための積極的投資
 - ▶ 人財の心と体を守る健康経営
 - ▶ ダイバーシティ実現に向けた制度の充実
 - ▶ 働きがいを持てる人事制度の構築

VII-8. 基本方針5 – 企業価値向上のためのESG経営 –

- 「100年先も誠実」を貫く企業として、社会課題に向き合い、マルチ・ステークホルダーとの信頼を築いていくために、ESG経営による企業価値の向上を図るとともに、SDGsの達成にも貢献する

ESG	マテリアリティ (重要課題)	取組内容	貢献するSDGs
E (環境)	脱炭素社会への貢献	TCFD提言に基づく開示とシナリオ分析 事業活動におけるCO ₂ 排出量の削減	  
	再生可能エネルギーへの貢献	再生可能エネルギー事業の周辺施工の促進	
S (社会)	働きがいの向上	働き方改革の推進 4週8閉所の実現	 
	ダイバーシティの推進	女性活躍に向けた職場環境の推進 女性・中途採用キャリアパスの創設と運用	
G (統治)	コンプライアンスの徹底	コンプライアンスに対する社員意識の向上 重大法令違反ゼロ	 
	リスクマネジメントの強化	事業継続計画（BCP）の整備と充実	

VII-9. 中期経営計画2025 スローガン



地域に根差し、地域を超えて マルチ・ステークホルダーとの 強い絆を築く



社会環境の変化を成長のエネルギーとし、真の課題に対し丁寧に向き合い、解決に向けて全力で取り組む。柔軟な思考の変化による挑戦と、安定した経営基盤をより効率化・強固にして取り組む挑戦を同時に行い、持ち前の誠実さで、顧客・社員・株主・地域社会・協力企業にとって欠かせないパートナーを目指す。

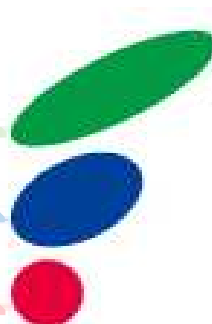
感動を築く。 FUKUDA

■ シンボルマークについて

FUKUDA GREEN 自然環境への配慮

FUKUDA BLUE より良い社会環境の創造

FUKUDA RED 人間と感動の象徴



さらに、形状の変化によって、
次のような意識を表現しています。

- 横への広がり「あらたな事業活動への挑戦」
- 上方へ「飛躍」
- 真円から楕円へ「たゆまぬ自己改革」



おかげさまで120周年



注 意 事 項

本資料に掲載されている計画・目標など将来に関する事項は、本資料発行時において入手可能な情報に基づき、当社および当社グループが作成したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。
従って、実際の業績等は記載されている目標等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。